資料4

「新未来『創造』とくしま行動計画」主要施策等評価シート

基本目標７　「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

重点戦略	主要施策		評価案	ページ
1　「大胆素敵とくしま」世界戦略の展開	1	「ゲートウェイとくしま」の推進	A	1
	2	「おもてなしの国とくしま」魅力向上の推進	A	3
2　湧き上がる「にぎわいと感動」渦の創造	1	「ときめく❤とくしま」観光誘客戦略の展開	C	7
	2	四季を通じたにぎわいの創出	B	13
	3	国際交流の推進	A	15
3　世界に輝く！「あわ文化」の発信	1	あわ文化の創造・発信	A	17
	2	史跡・文化財の活用	A	18
	3	文化の担い手づくり	A	19
4　世界を体感！「スポーツ王国とくしま」の推進	1	スポーツの振興によるにぎわいづくり	A	21
	2	競技力向上対策の推進	B	23
	3	生涯スポーツの推進	C	24
	4	障がい者スポーツの推進	A	25
5　一歩先の未来へ！「とくしま新魅力」の発信	1	４Ｋ先進地とくしまの推進	A	26
	2	「世界遺産」登録への挑戦	B	27

このシートの見方について

「新未来『創造』とくしま行動計画」主要施策等評価シート

数値目標達成状況の考え方

主要施策を構成する全ての主要事業の「数値目標の達成度」を◎を2点、○を1点、△を0点として、平均値を算出し、達成度に応じて次の区分で整理しています。
☆☆☆　１．８以上～２．０
☆☆　１．６以上～１．８未満
☆　１．６未満

基本目標1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現

1－1　とくしま回帰！魅力あふれる「まち」の創生

主要施策：1　魅力ある地域づくりの推進	数値目標達成状況	委員評価	部局

主要施策に対する評価（案）です。
次の区分で整理しています。
Ａ：順調
Ｂ：概ね順調
Ｃ：要見直し

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
1										
2										

「新未来『創造』とくしま行動計画」～平成27度版～の主要事業の概要・数値目標・工程（年度別事業計画）を記載しています。

計画に掲げた「主要事業」に対する、
・Ｈ２７取組内容と進捗状況
・課題
・今後の取組方針
について記載しています。

数値目標の「達成度」の考え方

数値目標の達成割合を算出し、次のように達成度を整理しています。
◎：達成　　１００％以上
○：ほぼ達成　８０％以上１００％未満
△：未達成　　８０％未満
―：平成27年度の実績値が未判明

基本目標７「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

７－１ 「大胆素敵とくしま」世界戦略の展開

主要施策：１ 「ゲートウェイとくしま」の推進	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆☆	A	県土

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
587	●観光消費の拡大や地域振興に大きな効果が見込まれる「大型外国クルーズ客船」の徳島小松島港への初寄港を実現させるとともに、徳島小松島港への国内外クルーズ客船の寄港を継続・拡大させるため、広域連携等による積極的な誘致活動や受入態勢の充実強化に取り組み、クルーズ来県者数の拡大を図ります。＜県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・国のHPに港湾・観光情報の掲載 ・外国船社のキーパーソンとの商談会 ・クルーズ関連会議への参加(6回) ・初の外国クルーズ客船（ダイヤモンド・プリンセス）の受入れ(1回) ・日本船の受入れ(4回) これらの取り組みにより、H28年度において新たなクルーズ客船２隻の寄港が決定した。 ＜課題＞ 大型クルーズ客船が寄港する赤石岸壁については、コンテナ定期便やチップ船が寄港する岸壁でもあるので、調整が必要。 また、日本への寄港については、政治情勢の影響を受けやすい。	国内外の新たなクルーズ需要を積極的に取り込み、継続寄港及び年間を通じての複数回の寄港を実現させ、「港の賑わい創出」や「本県経済の活性化」に繋げる。	県土
	○「クルーズ来県者数」【主要指標】 ㉕約２，８００人→㉚６，０００人	4,500人	4,900人	5,100人	6,000人	4,695人	◎			
	○「大型クルーズ客船」の初寄港 ㉗初寄港	初寄港				初寄港	◎			
588	●「徳島阿波おどり空港」の利用拡大を図るため、エアポートセールスを推進し、航空路線の新規開設を図るとともに、徳島を発着する航空路線の利便性向上、国際ターミナル機能の創設、新規需要の創出を推進します。（再掲）＜県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １ 県外の航空会社等へのエアポートセールス（H27:6社11回） ２ 海外の旅行会社等へのエアポートセールス（H27:8社12回） ３ 台湾の旅行会社向けファムツアー（H27実施：航空会社1,旅行会社8） ４ ハワイ（ホノルル）へのアウトバウンド国際チャーター（H27実施） ５ 福岡線利用促進に向けたｷｬﾝﾍﾟｰﾝ（H27実施） ６ 札幌線（8月のみ）利用促進ｲﾍﾞﾝﾄ（H27実施） ７ 空港ビル機能強化に向けての基本・詳細設計（H27実施） その他、促進協と連携したこどもまつり等のイベント実施により、空港の利用促進を図った。 ＜課題＞ 国際チャーター便の就航に向け、エアポートセールスの実施と空港のさらなる利用促進が必要	・福岡線の利用促進のために団体旅行助成を実施する。 ・空港の利用拡大のために乗継割引制度の拡大推進を図る。 ・空港の利用拡大のために戦略性を持った国内・国際エアポートセールスを実施する。 ・空港の利用拡大のために、国際チャーター便に対する支援策を実施する。 ・空港の機能強化に向けた建築工事を早期着工する。	県土
	○「徳島阿波おどり空港」の就航路線 ㉕東京線１日１２往復、福岡線１日２往復 →㉚維持・拡大				維持・拡大	－	－			
	○「国際チャーター便」の就航都市数（累計） ㉕－→㉚２都市			1都市	2都市	1都市	◎			
	○「国際ターミナル機能」の創設 ㉙供用開始			供用開始		－	－			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
589	●本県の産業振興と地域活性化を図るため、国際貿易の拠点である「徳島小松島港コンテナターミナル」の利用を促進する各種のより効果的な「貿易振興策」を実施し、新規航路の開設に取り組みます。＜県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 徳島小松島港の利用促進を図るため、県内外の荷主や船会社に対して、積極的にポートセールスを実施した。 その成果として、目標を１年前倒しする形で、昨年１２月から、徳島小松島港に寄港する韓国航路３便のうち１便について、中国の天津港、大連港まで航路が延伸された。 しかし、「コンテナ貨物取扱量」については、徳島小松島港を利用していいただいている大口荷主の一時的な生産調整や、中国経済の減速の影響もあり、目標が達成できなかった。 ＜課題＞ 「コンテナ貨物取扱量」は、社会情勢や景気の影響を受けやすい。	徳島小松島港の利用促進を図るため、今年度は新たに新規航路を開設した船会社に対する助成制度を設けた。 引き続き、荷主や船会社に対して、大阪湾の主要港湾等と連携を図りながら、積極的なポートセールスに取り組み、さらなる新規航路の開設や取扱貨物量の増加に繋げていく。	県土
	○コンテナ貨物取扱量 ㉕１２，４５０ＴＥＵ※ →㉚１７，０００ＴＥＵ	13,500 TEU	15,000 TEU	16,500 TEU	17,000 TEU	10,383 TEU	△			
	○中国・東南アジア航路の開設 ㉘開設		開設			開設	◎			
590	●徳島小松島港沖洲（外）地区複合一貫輸送ターミナルの供用に向けた関連施設整備を推進するとともに、「港内の静穏」と「船舶航行の安全」の向上を図るため、防波堤の延伸整備を促進します。＜県土＞	促進	→	→				＜H27取組内容と進捗状況＞ ・複合一貫輸送ターミナルの関連施設整備が完成し、新造船第１船目の営業運航が１月より開始した。 ・防波堤の延伸整備に着手し、鋭意工事促進中。 （ケーソン製作工事ほか着手） ＜課題＞ 防波堤の延伸整備における直轄事業の予算確保が必要。	H29完成を目指し、直轄事業の計画的な予算確保に向けて関係機関と調整・連携する。	県土
	○複合一貫輸送ターミナルの整備 ㉕工事施工中→㉗供用	供用				供用	◎			
	○防波堤の延伸整備 ㉗着手→㉙完成	着手		完成		着手	◎			

主要施策：２　「おもてなしの国とくしま」魅力向上の推進	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆☆☆	A	政策･商工･県土･西部

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
591	●東アジア・東南アジアを重点エリアとし、海外と徳島阿波おどり空港間のチャーター便の誘致をはじめ、関西広域連合・瀬戸内ブランド推進連合・四国ツーリズム創造機構等と連携した広域観光の推進、徳島の魅力を活かした団体旅行及び個人旅行、教育旅行、医療観光など多様な外国人観光誘客を推進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・ミラノ万博に出展し、本県の食や文化、産業、観光の魅力を世界に向けて発信（関西広域連合の構成団体で、合わせて20日間、うち本県が4日間出展） ・香港、台湾など海外で開催される旅行博に出展し、現地旅行業者等に対するプロモーションを実施 ・東アジア、東南アジア、欧州など海外のメディアや旅行業者を本県に招へいして観光ＰＲを実施 ・関西広域連合と連携し、同連合および本県のホームページ内にムスリム旅行者向けのコンテンツを構築 ＜課題＞ ・さらなる外国人観光誘客に向けた対象エリアの拡大 ・広域周遊ルート構築などで広域での取組促進に係る関係機関との連携強化 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ ●<u>重点エリアである東アジア・東南アジアに加えて、欧米も誘客の対象とし、</u>海外と徳島阿波おどり空港間のチャーター便の誘致をはじめ、関西広域連合・瀬戸内ブランド推進連合・四国ツーリズム創造機構等と連携した広域観光の推進、徳島の魅力を活かした団体旅行及び個人旅行、教育旅行、医療観光など多様な外国人観光誘客を推進します。	関西広域連合、瀬戸内観光推進機構、四国ツーリズム創造機構等との連携により、広域周遊ルートの構築、海外メディア・旅行業者の招へいなど、多様な外国人観光誘客を推進するとともに、新たに米国における旅行博への出展、東京都や関西国際空港利用促進協議会との連携による海外旅行業者等の招へいなど、誘客の取り組みを加速する。	商工
	○県内への外国人延べ宿泊者数【主要指標】 ㉕３２，３１０人→㉚８０，０００人	5万人	6万人	7万人	8万人	58,340人	◎			
	○関西広域連合との連携によるミラノ万博出展期間 ㉗２０日間出展	20日間出展				20日間出展	◎			
	○関西広域連合と連携したムスリム旅行者向けウェブサイトの構築 ㉗構築	構築				構築	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
592	●「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」として、「桃源郷のような別世界」と称される高地傾斜地集落の景観や暮らしなど地域独自の強みを活かし、アジアはもとより、米豪欧（アメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツ）でも、官民連携によるプロモーションを展開し、外国人観光客の増加を促進します。＜西部＞	促進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 1　ターゲット市場訪問及びＰＲ活動 ①香港営業（H27.6） ②在ロサンゼルス総領事公邸でのトップセールス（H27.10） ③ニューヨーク営業（H28.3） ④ミラノ万博出展（H27.9） ⑤アヌーガ世界食品見本市（ドイツ）でのPR（H27.10） 上記の取組みにより、外国の旅行会社、メディア等へ観光情報のＰＲを実施し、H27計画目標を達成した。 ＜課題＞ ・実際に外国人宿泊者数の増加が図られるよう取り組むとともに観光客増加に対応する宿泊施設の確保が必要。 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ ●「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」として、「桃源郷のような別世界」と称される高地傾斜地集落の景観や暮らしなど地域独自の強みを活かし、アジアはもとより、米豪欧（アメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツ）でも、官民連携によるプロモーションを展開するとともに、外国人観光客受入の核となるＤＭＯの構築や広域観光周遊ルートの推進等に取り組み、外国人観光客の増加を促進します。 【数値目標上方修正】 ○「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数 ㉕４，８８０ 人→㉚１０，０００人	・海外からの宿泊を伴う観光客(インバウンド)を増加させるため、今後も積極的な海外プロモーション活動と受入体制の整備を進めていく。	西部
	○「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数 ㉕４，８８０ 人→㉚１０，０００人	7,700人	8,200人	9,100人	10,000人	15,025人	◎			
	○アメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツでのプロモーションの展開 ㉕－→㉗～㉘展開	展開	展開			展開	◎			
593	●外国人向けの観光案内所の運営による情報提供や多言語表記の促進など、外国人観光客の受入環境の充実を図ります。 ＜政策・商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・とくしま無料Wi-Fi（Tokushima Free Wi-Fi）のアクセスポイントを、公共施設（14箇所）に追加整備した。 ・「徳島県訪日外国人受入環境整備事業助成金」を創設し、無料公衆無線ＬＡＮの整備を行う県内20事業者、多言語表記の整備を行う県内12業者に対して助成を行った。 ・民間企業への委託により英語、中国語、韓国語、タイ語に対応する翻訳・通訳サービスを行う外国語サポートデスクを設置 ・個人旅行者向けに県内観光施設等の情報を掲載した多言語・多機能アプリの開発・公開 ＜課題＞ ・来県者に対するTokushima Free Wi-Fiの周知。 ・通訳面での受入環境整備の充実 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標上方修正】 ○県が整備・補助した 無料公衆無線ＬＡＮアクセスポイント数 ㉕－→㉚７００アクセスポイント	・Tokushima Free Wi-Fiの追加整備を行う。 ・Tokushima Free Wi-Fiをより広く周知し、利用者の拡大を図るとともに、システムの適切な運用を行う。 ・引き続き、県内事業者による無料公衆無線ＬＡＮ、多言語表記整備への支援、外国語サポートデスクによる通訳・翻訳支援を行うとともに、通訳ボランティア団体の設立・活動支援を行うなど、外国人観光誘客に向けた受入環境の整備を着実に推進する。	政策商工
	○県が整備・補助した 無料公衆無線ＬＡＮアクセスポイント数 ㉕－→㉚４２０アクセスポイント	340 ｱｸｾｽ ﾎﾟｲﾝﾄ	370 ｱｸｾｽ ﾎﾟｲﾝﾄ	400 ｱｸｾｽ ﾎﾟｲﾝﾄ	420 ｱｸｾｽ ﾎﾟｲﾝﾄ	619 ｱｸｾｽ ﾎﾟｲﾝﾄ	◎			
	○外国語サポートデスクの設置 ㉗設置	設置				設置	◎			
	○個人旅行者対応「多言語・多機能アプリ」の開発 ㉗開発	開発				開発	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
594	●県西部圏域を災害に強い観光地域とするため、異常気象時や災害発生時における観光客への適切な対応や復興に係る計画「にし阿波観光ＢＣＰ」の策定に取り組みます。 ＜西部＞	→	策定	推進	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　にし阿波観光危機管理検討会の開催 （H27：2回） ２　「にし阿波観光危機管理対策基本方針」策定 ３　にし阿波観光危機管理セミナーの開催 （H27：1回） ４　通行止め等災害関連情報伝達体制の構築 上記の取組みにより、災害に強い観光地域づくりを推進した。 ＜課題＞ ・官民の連携強化及び観光危機管理に関する具体的な対応を記載した個別マニュアルの作成が必要。 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ ●県西部圏域を災害に強い観光地域とするため、異常気象時や災害発生時における観光客への適切な対応や復興に係る計画「にし阿波観光危機管理マニュアル」の策定に取り組みます。 ○「にし阿波観光危機管理マニュアル」の策定 ㉘策定	・官民が連携して具体的な対応を記載した個別マニュアルの作成に取り組む。	西部
	○「にし阿波観光ＢＣＰ」の策定 ㉘策定		策定			基本方針策定	－			
595	●観光地の魅力を向上させるため、主要幹線道路の整備によるアクセス向上に加え、国内外からの観光客が安心して楽しく訪問できる案内標識の整備等、観光地の魅力を向上させる新たな施策を推進します。＜県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・外国人にも分かりやすい標識 １６基設置 ・にし阿波アクセス H27は1箇所完成、累計12箇所 ・「道の駅」サービス機能強化　2箇所 防災拠点整備箇所 「道の駅 もみじ川温泉」 「道の駅 温泉の里神山」 トイレ改修 「道の駅 温泉の里神山」 ・本四道路と連携したイベントの実施 ２橋まるごとウォークツアー　１回 明石海峡大橋海上ウォーク　２回 上記の取り組みにより、数値目標を達成した。 ＜課題＞ 施設整備後の運用について道の駅の管理主体である市町との調整が必要	・引き続き、外国人観光客が利用する頻度が高いエリアから、順次、標識の英語表記（多言語化）に努めるとともに、アクセスルートにおける整備を推進する。また、道の駅のサービス機能強化を推進する。 ・本四道路と連携したイベントの実施 ２橋まるごとウォークツアー及び明石海峡大橋海上ウォークを実施する。	県土
	○外国人にも分かりやすい 観光案内標識の設置基数（累計） ㉕－→㉚４０基	10基	20基	30基	40基	16基	◎			
	○にし阿波～剣山・吉野川観光圏の アクセスルートの整備箇所数（累計） ㉕５箇所→㉚１９箇所	12箇所	15箇所	17箇所	19箇所	12箇所	◎			
	○本四道路と連携したイベントの実施 ㉕２回→㉗～㉚年間2回	2回	2回	2回	2回	3回	◎			
	○既存の「道の駅」のサービス機能強化箇所数（累計） ㉕－→㉚１０箇所	2箇所	5箇所	7箇所	10箇所	2箇所	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
596	●県西部圏域の交流人口を増やし地域活性化を図るため、剣山登山や集落めぐり、吉野川八合霧鑑賞など、にし阿波ならではの体験ができる着地型旅行商品や滞在プログラムの開発を促進します。＜西部＞	促進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　高地傾斜地集落めぐりや吉野川八合霧鑑賞など、にし阿波ならではの着地型旅行商品の企画・開発を促進し、催行した。 （H27参加者数：585人） ２　民間観光施設において中華圏の春節祭にあわせたイベントを実施した。 ３　「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」をコンセプトにした、にし阿波体感プログラムイベントを「あわこい」としてH28.2.6～3.21の45日間開催するとともに通年楽しめるプログラムとしても催行した。 （H27参加者数：1,024人） 上記の取組みにより、H27計画目標を達成した。 ＜課題＞ ・着地型旅行商品について、継続的に交流人口の増加を図るため、魅力的な旅行商品のブラッシュアップが必要。 ・地域づくりにおける一体感を醸成するために、プログラム催行者間の連携等を図る必要がある。	・引き続き官民が協力し、国内外から何度でも訪れたくなるような旅行商品のブラッシュアップや受入体制の整備などにより、にし阿波ならではの独自ブランドを確立する。 ・にし阿波体感プログラムイベントについて、それぞれのプログラムの質の向上を図るとともに、地域づくりにおける一体感を醸成するために、個々のプログラムの催行者間の連携を深め、地域が一体となった取組みを進める。	西部
	○着地型旅行商品（滞在プログラムを含む）の参加者数 ㉕３０５人→㉚６００人	450人	500人	550人	600人	585人	◎			
	○にし阿波体感プログラムイベント参加者数 ㉕８０１人→㉗～㉚年間１，０００人以上	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,024人	◎			
597	●先進的な医療サービスの提供と豊富な観光資源や地域食材を組み合わせた医療観光（メディカルツーリズム）を推進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・受入に係る県内医療機関等との連携を図るとともに、上海事務所を中心とした情報発信、問い合わせへの対応等を実施。 ＜課題＞ ・受入体制の整備	引き続き県内医療機関等と連携して受入体制の整備を図るとともに、本県への誘客を推進する。	商工

基本目標７「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

７-２　湧き上がる「にぎわいと感動」渦の創造

主要施策：１　「ときめく♥とくしま」観光誘客戦略の展開	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆	C	県民･商工･農林･県土･南部

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
598	●「おどる宝島！パスポート」をはじめとする誘客コンテンツの整備、効果的な魅力発信や旅行商品の造成促進等による「観光目的客の取り込み」、コンベンション誘致促進による「ビジネス目的客の取り込み」、「東京オリンピック・パラリンピック」等を見据えた「『訪日外国人２０００万人時代』に向けた取組み」を核とする「徳島県観光振興基本計画（第２期）」に基づく戦略的な取組みを推進することにより、観光誘客を促進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・「おどる宝島！パスポート」について、淡路島、和歌山（高野山）と連携し、おもてなし施設と発行所を拡大し利便性を向上。 ・新たな誘客コンテンツとして「秋の阿波おどり～阿波おどり大絵巻」を開催。夏の前夜祭を彷彿させる有名連による「阿波おどり大絵巻」や「全国阿波おどりコンテスト」を実施。 ・ミラノ万博において、「ＬＥＤ」や「藍」をテーマにして、「ＪＡＰＡＮ　ＢＬＵＥ徳島」とのキャッチフレーズのもと、「藍染」「阿波和紙」の体験や「三番叟まわし」などの伝統芸能、「マチ★アソビ」のＰＲ、４Ｋ映像を活用した観光プロモーション等を実施。 ＜課題＞ ・誘客コンテンツの充実 ・二次交通の整備 ・情報発信の強化 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ ●「おどる宝島！パスポート」をはじめとする誘客コンテンツの整備、効果的な魅力発信や旅行商品の造成促進等による「観光目的客の取り込み」、コンベンション誘致促進による「ビジネス目的客の取り込み」、「東京オリンピック・パラリンピック」等を見据えた「『訪日外国人２０００万人時代』に向けた取組み」を核とする「徳島県観光振興基本計画（第２期）」に基づく戦略的な取組みを推進することにより、<u>観光関連事業者との連携など、官民を挙げた</u>観光誘客を促進します。	・現在、平成２９年春（４月～６月）の四国ＤＣ（デスティネーションキャンペーン）に向け、四国４県が連携して観光誘客に取り組んでおり、その一環として、平成２８年５月には、全国から旅行関係者７００名を招へいして「全国宣伝販売促進会議」を開催するとともに、その翌日から県内３コースの視察ツアーを実施し、旅行会社の企画担当者に対し、直接、本県の魅力を発信。 ・羽田空港において、「阿波藍」を前面に押し出した形の観光キャンペーンを実施。（H28.7） ・本県最大の誘客コンテンツである「秋の阿波おどり」の充実を図るとともに、国内外から旅行会社等を招いたファムツアーを実施。 ・平成２８年秋には四国ＤＣプレキャンペーンとして大阪駅前で観光ＰＲを実施するとともに、定期観光バスや県東部を巡回する周遊バスなど、二次交通の整備に向けた実証運行を実施。 ・団体旅行の需要喚起を図るためのバス助成を実施。 ・４Ｋ映像を活用した効果的な情報発信。	商工
	○年間の延べ宿泊者数【主要指標】 ㉕２２６万人→㉚３００万人	260万人	270万人	285万人	300万人	231万人	△			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
599	●付加価値の高い農林水産物や6次化商品、伝統工芸品から特に優れたものを、新たな「とくしま特選ブランド“１００選”」に選定するとともに、その魅力や品質を磨き上げてプレミアム化を図り、食と阿波文化の融合により、国内外に強力にアピールします。また、海外アンテナショップを新たに設置し、海外でのフェアや商談会を通じて、「とくしま特選ブランド」の海外市場販路開拓を支援します。＜商工・農林＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ とくしまブランドを世界に誇れるトップブランドに育て上げるため、加工品の「特選阿波の逸品」と一次産品の「とくしま特選ブランド」を統合し、新たな「とくしま特選ブランド」としてリニューアルした。 平成２７年度は、第一弾として２１品目を選定し、「あるでよ徳島」で特設展示を行うなどのＰＲを行うとともに、事業者に対し、売れる商品となるためのワークショップを開催することで事業者支援を行った。 また、海外での販路開拓を促進するため、香港一田百貨（ヤッタデパート）において徳島県フェアを開催した。 ＜課題＞ ・「とくしま特選ブランド」の認定商品の増加とＰＲ強化、事業者の指導	・「とくしま特選ブランド」については、制度のＰＲを行い認定商品を増やすとともに、事業者に対して、商品力の向上に向けた指導を行う。 また、「ふるさと納税」の返礼品や「おどる宝島！パスポート」の景品として採用するとともに、首都圏や海外の展示会、商談会に優先出展することで認定商品のＰＲ強化に努める。	商工 農林
	○選定数（再掲） ㉕５７品→㉚１００品	70品	80品	90品	100品	77品	◎			
	○海外でのフェアや商談会への年間参加事業者数 ㉕２３事業者→㉚７０事業者	35事業者	45事業者	55事業者	70事業者	28事業者	△			
600	●「おどる宝島！パスポート」の充実強化や地元ならではの観光、体験、食などを組み合わせた着地型旅行商品の造成を推進することにより、県内における観光客の周遊と宿泊、リピーター来県を促進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・平成２５年１０月から、県内の観光地や宿泊施設、飲食店等において「おどる宝島！パスポート」を配布し、リピーターの来県を促進するための取組みを実施しており、現在、淡路島を含む約７００施設が「おもてなし施設」として参加。 ・平成２７年度は、大鳴門橋架橋３０周年を記念して開催された「淡路花博」等でも配布。 また、ＰＲ冊子を小型化し、持ち運びできるサイズにするとともに、写真や地図を掲載するなどのリニューアルを行った。 ・引き続き淡路島の施設と連携を行った。 ・四国ＤＣに向け、市町村と連携し、県内観光素材の発掘と洗い出しを行い、旅行商品の造成促進に努めた。 ＜課題＞ ・おもてなし施設数の充実及び県外でのＰＲ	・引き続き、おもてなし施設数の充実に努めるとともに、効果的なＰＲを実施し、リピーターの来県促進を図る。	商工
	○「おどる宝島！パスポート」の発行数（累計） ㉕２万冊→㉚２０万冊	10万冊	14万冊	17万冊	20万冊	11万冊	◎			
601	●本県の持つ豊かな自然や食材、伝承された知恵や技術、個性ある郷土芸能など、本県ならではの地域資源を活用した体験メニューを磨きあげていくとともに、教育旅行の受入拡大を支援することで、県民参加型の観光客誘致を推進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・県南部において体験型観光先進地の講師を招いた講演会を開催。（H28.2） 併せて、本県の体験メニューのブラッシュアップを図るための研修会を開催した。 ＜課題＞ ・新規顧客の獲得及びリピーター率の向上	・コーディネート組織（そらの郷、南阿波よくばり体験推進協議会）の連携により、より多くの体験型教育旅行の受入を可能にするとともに、営業活動のさらなる強化により新規顧客の獲得に努める。 ・平成２９年３月には、「全国ほんもの体験ネットワーク総会」を本県（県南部）で開催することとなっており、全国で体験型観光を推進している従事者が、各地域の課題解決に向けた意見交換や研修を実施し、インストラクター等関係者のスキルアップを図ることにより、参加者の満足度向上に繋げる。	商工
	○体験型教育旅行における延べ受入泊数（協議会受入） ㉕５，６４６泊→㉚７，０００泊	6,000泊	6,300泊	6,600泊	7,000泊	5,791泊	△			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
602	●四国４県が連携して四国のグリーン・ツーリズムを推進するとともに、インターネットを活用したグリーン・ツーリズムのＰＲを展開し、徳島の農山漁村への入り込み客数の増加を図り、活気あるむらづくりを進めます。（再掲） ＜農林＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １．制度説明会や研修会、関係機関と連携した指導等により、4軒が開業した。 ２．農家民宿スキルアップセミナーを開催した（3回） ３．四国グリーンツーリズム推進協議会を開催した（3回） ４．「思いっきり四国！88癒しの旅。キャンペーン」によるＰＲを行った（7／18～1/17）。 ＜課題＞ ・経営者のノウハウ不足によるＰＲ不足 ・海外旅行者の受入体制の整備	・入り込み客数増加のためにイベントやHP等を通じたPR支援を実施する。 ・インバウンドの受入体制強化のための受入会話研修会の実施、webサイトの多言語化を実施する。	農林
	○とくしま農林漁家民宿数（累計） ㉕３０軒→㉚４０軒	34軒	36軒	38軒	40軒	37軒	◎			
	○とくしま農林漁家民宿等の体験宿泊者数 ㉕１，７８０人→㉚２，２００人	1,900人	2,000人	2,100人	2,200人	3,190人	◎			
603	●国内外に向けて本県の物産・観光の情報発信を推進するため、県の「大阪・名古屋物産センター」や、「コンビニ型アンテナショップ」のさらなる展開を促進するとともに、全国初となるアニメとコラボレーションした店舗のアンテナショップ認定をはじめ、県外の民間店舗を「阿波とくしまアンテナショップ」として認定するなど、県産品の販路拡大・販売促進を図ります。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・８月のＪＡＬ「徳島－札幌線」就航に合わせ、札幌市内のローソン２店舗においてアンテナショップを開設。(H27.8) ・博多駅に隣接する西鉄ホテルクルーム博多１階のローソンにおいて九州アンテナショップを開設。(H28.3) ・北九州市で営業するマチアソビＣＡＦＥにおいて、本県一次産品を使用した料理を提供するとともに、アニメとのコラボによる県産品ＰＲ用ポスターを配布した。 ＜課題＞ ・アンテナショップを活用した県産品の販売機会の増加 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ ●国内外に向けて本県の物産・観光の情報発信を推進するため、県の「大阪・名古屋物産センター」や、「コンビニ型アンテナショップ」のさらなる展開を促進するとともに、全国初となるアニメとコラボレーションした店舗のアンテナショップ認定をはじめ、県外の民間店舗を「阿波とくしまアンテナショップ」として認定し、活用することで効果的な情報発信に努め、県産品の販路拡大・販売促進を図ります。	・引き続き「コンビニ型アンテナショップ」及び「阿波とくしまアンテナショップ」等を活用して、首都圏をはじめ大阪・名古屋及び北海道・九州において、県産品の販路拡大、情報発信の強化に努める。 ・札幌市内のアンテナショップについて、平成２７年度は８月の１月間のみであったが、平成２８年度は７月、８月の２か月間に延長。 ・九州のアンテナショップは、隣接する飲食店との連携により、更なる販路拡大に努める。	商工
	○マチ★アソビ・サテライトショップ数 ㉕－→㉚３拠点	1拠点	2拠点	2拠点	3拠点	１拠点	◎			
604	●県内企業の海外販路開拓・海外展開を支援するため、東アジア・東南アジアを重点エリアとする「とくしまグローバル戦略」に基づき、上海事務所を前線基地として活用し、商談機会の拡大や海外企業と本県企業との交流を推進します。（再掲）＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・海外でのフェアの開催、見本市等への出展支援 中国、香港、ベトナム等東アジア・東南アジアで計14回開催 ・県内でのバイヤー等招へい商談会 中国、香港、タイ等のバイヤー等を招へいし、計7回開催 ＜課題＞ ・引き続き県内企業に対してフェア等の出展や海外バイヤーとの商談の機会の提供が必要	県内企業のさらなるグローバル化に向けて、海外でのフェア等の開催や見本市への出展支援、県内での商談会の開催などにより支援を行う。	商工
	○商談会・フェア等延べ参加企業数 ㉕７９社→㉚１００社	88社	92社	96社	100社	98社	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
605	●映像を通じて徳島の魅力を発信するため、徳島を舞台にした映画やドラマ等のロケを誘致・支援します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・年間を通じて、的確な情報提供と迅速な対応により、ドラマ（広域警察）、情報番組（所さんの目がテン！）、ＣＭ（パナソニック　ビエラ）などの県内ロケの支援・誘致を実施。 ＜課題＞ ・的確な情報提供と迅速な対応が求められる	・市町村や県観光協会と連携し、これまで以上に的確な情報収集に努め、迅速な対応を図る。	商工
	○ロケ支援件数 ㉕１４件→㉚２５件	20件	20件	25件	25件	41件	◎			
606	●「関西の台所」を担う「食の宝島」であり、「体験型観光の先進地」でもある徳島ならではの魅力を「観光とくしまブランド」として確立し、多くの観光客に選ばれる徳島を目指して、マスメディアをはじめ、ＳＮＳを活用した情報発信や海外におけるプロモーションを展開することにより、広く国内外に向けた認知度の向上を図ります。 ＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・雑誌や観光パンフレットをはじめ、観光情報サイト「阿波ナビ」やFacebookなど様々な媒体を用いて情報発信を行った。 ＜課題＞ ・数ある観光地の中から徳島を選んでもらうための工夫	・常に最新の情報や旬の情報を発信することにより、アクセス件数の向上を図る。単に観光情報を提供するのではなく、ターゲットを絞り、徳島ならではの魅力を発信する。	商工
	○観光情報サイトアクセス件数 ㉕７０万件→㉚９０万件	75万件	80万件	85万件	90万件	73万件	△			
607	●吉野川を今後さらに輝かせ、全国へ誇れる「徳島ならでは」の魅力あるブランドとするため、「恵みの宝庫“吉野川”創造プロジェクト」により、吉野川における新たな観光資源の創出や吉野川の歴史・文化・環境に関する講座の開催などに取り組みます。＜県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 　吉野川に関する歴史・文化・環境をテーマに講演会や現地見学会を計５回開催し、119人が受講した。 　上記の取組により、目標を達成した。 ＜課題＞ 　吉野川の魅力を広く発信するため、より幅広いテーマでの講座の開催が必要	幅広いテーマの講座を開催するため、それぞれのテーマに精通した講師選定や現地見学先との調整を行う。	県土
	○講座の受講者数 ㉕７６人→㉗～㉚年間１００人以上	100人	100人	100人	100人	119人	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
608	●県南部圏域の地域活力を高めるため、圏域の団体や行政が一体となり「アウトドアスポーツの楽園」と呼ばれる環境や豊かな自然から育まれる豊富な食材等地域資源を活用した魅力あるイベント等を開催し地域ブランド力の向上と交流人口の増大を図ります。＜南部＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・「四国の右下・まけまけマルシェ」を道の駅日和佐で開催したほか、地域イベントの「阿南市活竹祭」や「ナカまつり」等に参加する「出張マルシェ」を開催した。（H27:9回） ・トレイルランニングのトップアスリート・鏑木毅 氏にアドバイスをいただきながら、「千羽海崖トレイルランニングレース」のロングクラスのコースを変更し、ウルトラトレイル・マウントフジ対象ポイントを獲得できる大会に改良した。 ・那賀町「南つるぎ地域」におけるトレイルキャンプや『かめたろうと行く「四国の右下」満喫ツアー』などを実施するとともに、「四国の右下・魅力倍増」推進会議誘客促進部会において、新たな着地型商品の検討を行った。 ・南部圏域の魅力ある食材を活用した「南阿波丼」をはじめとする「南阿波グルメ」について、「全国丼サミットｉｎあなん」や「まけまけマルシェ」、石川県で開催された「全国丼サミット」など県内外で販売ＰＲを展開した。 ＜課題＞ ・より魅力的な着地型商品の開発 ・「南阿波グルメ」などの販売拡大 ・インバウンド誘客対策やアウトドアスポーツや食などの情報発信力強化	・県南ならではのアウトドアスポーツや食などを組み合わせた着地型商品を企画し誘客を促進する。 ・インバウンド誘客対策として、「日和佐うみがめトライアスロン」や「四国の右下ロードライド」における多言語翻訳サービスの活用や、ウェブサイトの英語化などの取組みを進める。 ・トップアスリートや南阿波丼などを活用した動画配信やＳＮＳにより、県南の魅力発信を強化する。 ・「南阿波グルメ」については、集客力の高い地域イベントとの連携やプレミアム券（割引券）の発行など、販売拡大の取組みを進める。	南部
	○「四国の右下・まけまけマルシェ」等による集客数 ㉕－→㉚４０，０００人	35,000人	35,000人	40,000人	40,000人	38,000人	◎			
	○トップアスリートプロデュースによる「四国の右下・アウトドアスポーツ」参加者数 ㉕－→㉚８００人	200人	400人	600人	800人	600人	◎			
	○着地型旅行商品による入り込み客数の拡大 ㉕－→㉚３，５００人	500人	1,500人	2,500人	3,500人	638人	◎			
	○新たな雇用拡大（累計） ㉕－→㉚３人	－	1人	2人	3人	1人	◎			
	○「南阿波グルメ」の販売拡大 ㉕１５，０００千円 →㉚５０，０００千円	25,000千円	35,000千円	40,000千円	50,000千円	22,760千円	△			
609	●きめ細かな観光情報の提供や案内、県民との交流など、心のこもったおもてなしの接遇により、本県を訪れる観光客にとって、安心快適に徳島旅行を楽しんでいただき、リピーター来県にも繋がるよう、県内全体のおもてなしマインドの向上を図ります。＜商工＞	創設・顕彰	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・観光ボランティア団体等を対象に、ガイド案内のスキルアップや交流等に取り組み、受入態勢の強化を推進した。 ・県内の観光案内所に「おどる宝島！パスポート」を配布するとともに、参加施設数を増やすことにより、情報発信拠点の充実を図った。 ・おもてなしマインド向上に向けた取組として、「香港観光客への『おもてなし力向上』セミナー」を実施。(H27.12) ＜課題＞ ・おもてなしマインドのさらなる向上 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ ●本県を訪れる観光客にとって、きめ細かな観光情報の提供や案内、県民との交流など、心のこもった“おもてなし”により、安心快適に徳島旅行を楽しんでいただき、リピーター来県にも繋がるよう、県内全体のおもてなしマインド向上のための啓発に努めます。	・平成２８年秋には、四国ＤＣ（デスティネーションキャンペーン）プレキャンペーンとして、主要な観光地を繋ぐ定期観光バス、県東部エリアを対象とした周遊バスなど、本県を訪れる観光客が安心快適に徳島旅行を楽しんでいただけるよう、二次交通の整備に向けた実証実験を実施。 　あわせて、市町村と連携して、主要な観光地における観光ガイドの充実に取り組む。 ・「おどる宝島！パスポート」のおもてなし施設数の充実を図ることで、官民を挙げたおもてなしマインドの向上を図る。 ・「ボランティアガイドおもてなし大賞（仮称）」について、平成２８年度中の創設に向けて取り組む。	商工
	○「ボランティアガイドおもてなし大賞（仮称）」の創設・顕彰 ㉗創設・顕彰	創設・顕彰				－	△			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
610	●本県の優れた自然景観等を有する自然公園などについて、自然景観等の保護や利用の増進を図るため、施設整備を行います。（再掲）＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 観光案内板については、平成２８年度以降の整備に当たり、多言語表記化等の設計業務を行った。 また、四国のみちについては、「山寺のみち」の再整備を行い、再整備ルート数の累計は１３ルートとなった。 ＜課題＞ 観光案内板については、表記の統一や外国人観光客にも対応したものであることが求められている。 四国のみちの再整備については、工事施工に先立って関係機関（地元・用地関係者等）との協議が必要であるため、不測の日数を要する場合がある。	国内のみならず国外からも自然公園等の利用の増進を図るため、計画的に看板の整備、ルートの再整備を実施する。	県民
	○鳴門公園施設内での多言語表記の観光案内板設置率 ㉕２６％→㉚１００％	26%	50%	75%	100%	26%	◎			
	○登山道と四国のみちの再整備ルート数 ㉕１２ルート→㉚１５ルート	13ﾙｰﾄ	14ﾙｰﾄ	14ﾙｰﾄ	15ﾙｰﾄ	13ﾙｰﾄ	◎			
611	●橋梁など道路施設に対する理解を深めるため、吉野川に架かる橋梁を「橋の博物館」としてＰＲするとともに、観光資源として活用します。＜県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・ホームページのリニューアル、橋梁史の作成 ・「ふれあい・橋・エステ」の実施 ・「吉野川に架かる橋フォトコンテスト」の開催 ・「吉野川の構造物めぐりと防災体験バスツアー」の開催 上記の取り組みにより、数値目標を達成した。 ＜課題＞ ・「橋の博物館・とくしま」のＰＲ活動を安定的かつ継続的に行えるシステム作りが必要	・ホームページのリニューアル、橋梁史については、「徳島の橋を語る会」を開催後に公表予定。 ・「橋の博物館・とくしま」をさらに広く認知してもらうため、ホームページ・橋梁史・橋梁イベント等を通して、県内外で情報発信を実施する。	県土
	○ホームページのリニューアル ㉕ー→㉗構築	構築				構築	◎			
	○橋梁史の作成 ㉕ー→㉗作成	作成				作成	◎			
	○橋梁イベントの開催 ㉕ー→㉗～㉚年間１回	1回	1回	1回	1回	3回	◎			

主要施策：２　四季を通じたにぎわいの創出	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆	B	県民･商工

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
612	●全国はもとより海外からも集客力があるアニメイベント「マチ★アソビ」の開催により、徳島の魅力を全世界へ発信し、交流を促進します。 ＜商工＞	開催	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　マチ★アソビvol.14 （平成27年5月3日～5日） ２　マチ★アソビvol.15 （平成27年9月26日～10月12日） 上記のアニメイベントの開催により，年間参加者数の増加を図るとともに，徳島の魅力を国内外に発信した。 ＜課題＞ 訪日外国人受入体制を整備し，外国人観光誘客の増加を図る。	更なる参加者数の増加を図るため、「マチ★アソビ」のイベント内容を充実させるとともに，国内外の参加者が言語に関係なく楽しめるよう体験型イベントの充実や訪日外国人への言語対応等受入れ体制の整備を図る。	商工
	○「マチ★アソビ」年間参加者数【主要指標】 ㉕１１．３万人→㉚１６万人	13万人	14万人	15万人	16万人	15.4万人	◎			
	○海外ＰＲイベント年間参加者数 ㉕－→㉚１０，０００人以上	6千人	7千人	8千人	10千人	7,120人	◎			
613	●「とくしまマラソン」の開催により、県民のスポーツ振興や青少年の健全育成を図るとともに、本県の魅力や県民挙げての「おもてなしの心」を全国に情報発信できる本大会の規模を拡大し、更なるにぎわいづくりを実現します。 ＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 「とくしまマラソン2016」開催（平成28年4月24日）に向けて準備を行った。 ・エントリー数14,236人（うち海外から135人） ・新コースとして県庁前をスタート地点に設定し、吉野川大橋を渡るコースとした。 ・ゲストランナーとして、金哲彦氏、高橋尚子氏、尾崎好美氏を招聘することとした。 ・招待選手として、松本翔選手、川内鴻輝選手、俵千香選手を招くこととした。 ＜課題＞ ・競技力の向上 ・ランナーのマナーアップについて啓発	・競技力の向上 レベルの高い招待ランナーの招聘やマラソン講座の充実を図る ・ランナーのマナーアップ啓発 ホームページや新聞媒体等を利用した呼びかけの実施	商工
	○エントリー数 ㉕１万人→㉚２万人以上		1.6万人	1.8万人	2万人	14,236人	◎			
614	●「夏の阿波おどり」はもとより、春と秋の「阿波おどり」の魅力向上を図るほか、有名連の練習風景を観光資源としてＰＲするなど、阿波おどりの通年活用により、本県を訪れる観光客の周遊と宿泊を促進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・春の阿波おどり「はな・はる・フェスタ」や、８月の阿波おどり本番に対する支援を行った。 ・秋の阿波おどりとして、有名連による阿波おどり大絵巻、県外連による阿波おどりコンテストなどを大々的に実施。（H27.11） ・ミラノ万博において、藍染めファッションショーの中で阿波おどりを披露。（H27.9） ＜課題＞ ・阿波おどりの魅力を国内外に向けて更に発信 ・阿波おどりによる誘客が、宿泊につながるよう、県内の他の観光資源との連携が必要	・秋の阿波おどりについて、来場者や参加した阿波おどり連に対するアンケートの意見を踏まえ、内容を充実するとともに、ツアー造成に向けたＰＲを強化。 ・平成２８年に日本との国交５０周年を迎えるシンガポールで阿波おどりを披露。（H28.10） ・「阿波ナビ」による情報発信や、「おどる宝島！パスポート」の積極的な配布等により、徳島での観光はもとより､食・物産・伝統工芸など幅広い魅力を体感していただき、長時間の滞在・宿泊へと誘導する。	商工
	○年間の延べ宿泊者数（再掲） ㉕２２６万人→㉚３００万人	260万人	270万人	285万人	300万人	231万人	△			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
615	●「渦の道」、「あすたむらんど徳島」、「美馬野外交流の郷」などの交流拠点の魅力を高めるとともに、交流拠点を活用したイベントの充実を図り、また、来場者へのアンケートを実施し、意見を踏まえた取組みやサービスを提供することで満足度の向上を図ります。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 〇渦の道 京阪神でのＰＲにも力を入れ、外国人観光客への案内の充実や旅行業者への積極的アプローチなど積極的な誘客に取り組んだ結果，来場者数は前年度比１０１％と増加した。 来場者数[H27] 510,494人 来場者再度来館希望[H27]79.3% 〇あすたむらんど クリスマスイルミネーションが定着したこと、大型連休や夏休み期間中のイベントやデジタルアート展が非常に好評であったことなどから、来場者数は対前年比１１５％と大幅に上回った。 来場者数[H27]500,754人 来場者満足度[H27]88.7% 〇美馬野外交流の郷 全国版の専門誌や旅行誌への広告の掲載や県内外のアウトドアショップへの広報活動や阿波おどりの演舞のイベントの開催などの幅広い集客活動により，来場者数は対前年比１０２％と増加した。 来場者数[H27]16,992人 来場者満足度[H27]93.1% 指定管理者の創意工夫に加え，アンケートや来場者の意見を踏まえたイベントの開催等により、来場者数の目標（94万人）を大幅に上回った。 （３施設合計　1,027,666人） ＜課題＞ 魅力ある施設として機能するためには，予防保全型の維持管理に努めるとともに，施設の改修等を実施する必要がある。	・継続的に来場者を呼び込めるイベント等の充実により来場者数の増加に努め、本県全体のにぎわい創出につなげる。	商工
	〇「渦の道」、「あすたむらんど徳島」及び「美馬野外交流の郷」の来場者数 ㉕９３万人→㉚１００万人	94万人	96万人	98万人	100万人	102万人	◎			
616	●「とくしまコンベンション誘致推進協議会」や「とくしまコンベンション支援ガイド」の活用に加え、大会誘致に向けた効果的な助成など本県ならではのコンベンションを提案することにより、コンベンション参加者数の増を目指します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・コンベンションは宿泊・飲食・交通など幅広い業種が関係することにより、地域経済への波及効果が大きいことから、とくしまコンベンション誘致推進協議会が中心となり、県を挙げて誘致促進に取り組んだ。 （主なもの） 法人会全国大会(10月) 全国理容美容学会技術大会　全国大会(11月) 日本水環境学会年会(3月) ＜課題＞ ・更なるＰＲが必要	・市町村をはじめ旅行会社や宿泊事業者など、とくしまコンベンション誘致推進協議会の連携を強化し、継続して誘致に取り組む。	商工
	〇コンベンション（中四国規模以上）の参加者数 ㉕９６，４９４人→㉚１３０，０００人	115,000人	120,000人	125,000人	130,000人	92,201人	△			
617	●２０１９年から２０２１年にかけて開催される３大国際スポーツ大会の誘致に向けて県内の機運醸成を図るため、競技団体や関係機関との連携による大規模スポーツ大会（５００人以上）の開催を誘致し、その定着を図ることにより、競技力の向上に取り組み、スポーツの交流を通じた活気あふれるスポーツ王国づくりを目指します。＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・西日本グランドゴルフ大会（4月） ・西日本少女サッカーフェスティバル（5月） ・西日本ソフトテニス選手権大会（7月） ・阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会（8月） ・西日本渦潮少年サッカー大会（8月） 上記大会により目標を達成した。 ＜課題＞ スポーツ施設を更に充実させることにより、大会誘致が進む可能性がある。	引き続き、Ｈ２８年度実績達成に向け、競技団体と働きかけを行う。	県民
	〇大規模スポーツ大会の開催数 ㉕５大会→㉗～㉚年間４大会以上 ・競技ラフティング世界大会 （２０１７年度開催）	4大会	4大会	4大会	4大会	5大会	◎			

主要施策：３　国際交流の推進

数値目標達成状況	委員評価	部局
☆☆☆	A	商工

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
618	●相談窓口の充実、生活支援講座の開設、市町村等と連携した多言語による情報提供等を行い、在県外国人に対して生活相談等に応じる専門ボランティアの養成を行うとともに、ボランティア、支援団体、行政機関による外国人支援のためのネットワークを形成します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・在住外国人及び外国人観光客に対するサポートやボランティアを行う「とくしま外国人支援ネットワーク会員」の登録促進，日本語指導，災害時通訳等専門ボランティア養成講座等の実施 ・とくしま国際戦略センターにおいて，窓口での多言語対応（英語・中国語），無料Wi-Fiｽﾎﾟｯﾄの提供やﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞで行政情報，生活情報等を提供 ・在住外国人の日常生活を支援するため，生活上の基礎知識の提供や日本語指導等を行う生活支援講座を開設 ・在住外国人支援のためのネットワーク形成を推進するため，相互の情報交換や取組等について「相談支援ネットワーク会議」において協議 ・在住外国人向けの多言語情報ｶﾞｲﾄﾞを各市町村に配布 ＜課題＞ ・登録ボランティアのスキルアップ ・各種情報提供の充実	引き続き、外国人の方が住みやすい多文化共生のまちづくりを推進するため，各種支援ボランティアの募集強化及びスキルアップの支援や，行政，生活，観光，経済等多様な情報提供の充実を図る。	商工
	○とくしま外国人支援ネットワーク会員数 【主要指標】 ㉕１６２人→㉚３００人	220人	240人	270人	300人	251人	◎			
619	●日本人住民の異文化理解の一層の向上を図るとともに、多様な主体による交流イベント等の開催を支援し、国際化による多文化共生を推進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・県民の異文化理解を促進するため，教育機関等に国際理解支援講師を派遣 ・国際理解を推進するため，国際理解支援フォーラムを開催し，国際理解分野で活躍する方の講演や意見交換会を実施 ＜課題＞ ・国際理解支援講師派遣先の拡充 ・国際理解支援フォーラムの内容充実	引き続き、県民の国際理解の促進及び国際的視野を持つ人材育成を推進するため，在住外国人やＮＧＯ関係者，国際交流員などによる国際理解支援講師派遣や，国際理解推進イベントの開催を実施する。	商工
	○国際理解支援講師派遣の件数 ㉕４８件→㉚７０件	55件	60件	65件	70件	55件	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
620	●友好提携・友好交流先の地域と経済、文化、スポーツ、教育、観光等幅広い分野において、相互にメリットが享受できる国際交流を推進します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 友好提携州と，様々な分野において，相互交流を実施 （ニーダーザクセン州） ・県柔道連盟役員及び県内選手の派遣 ・州剣道連盟指導者の受入れ ・新たなスポーツ種目における交流（ハンドボール・カヌー） ・産業分野における，県中央テクノスクールと州リューネブルク職業訓練センターが，パートナーシップ協定を締結 ・県教育訪問団が訪独し，「教育交流に関する調定」を締結 ・姉妹校締結による生徒間交流の実施 ・「アイデア博」に阿南高専が出展 （湖南省） ・常寧市での植林事業の実施 ・州主催「湖南省国際友好職員セミナー」に職員を派遣 ・四国大学と湘潭大学との間で「訪問学生及びﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに関する覚書」を締結 （サンパウロ州） ・サンパウロ州で開催される「日本祭」（ブラジル日本都道府県人会連合会主催）を通じた文化交流の実施 ＜課題＞ ・新たな分野での交流による友好交流の推進 ・交流による国際人材の育成など，相互に「実のある交流」の実施	友好提携州と，「経済」「文化」「スポーツ」「教育・学術」など，様々な分野における相互交流をより一層深化させ，両県州の発展に寄与する「実のある交流」を進める。	商工
	○ドイツ・ニーダーザクセン州との友好交流の推進					推進	◎			
	○中国・湖南省との友好交流の推進					推進	◎			
	○ブラジル・サンパウロ州に在住する本県出身者との交流の推進					推進	◎			

基本目標７「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

７-３ 世界に輝く！「あわ文化」の発信

主要施策：１　あわ文化の創造・発信	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆☆☆	A	県民･教育

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
621	●阿波人形浄瑠璃の一層の振興を図るため、伝統芸能を観光資源として活用し地域の活性化を促進するとともに、後継者育成や伝統芸能の保存・継承のための取組みを進めます。 また、「人形浄瑠璃街道連絡協議会」や関西広域連合と連携して、人形浄瑠璃関係団体の交流などの事業を実施するとともに、徳島ならではの魅力を広く発信します。 さらに、オリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、徳島ならではの「文化プログラム」を創造し、関西が一体となって取り組む「関西文化プログラム（仮称）」の１つとして展開することで、あわ文化が関西広域連合の文化施策を牽引します。＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ○　阿波十郎兵衛屋敷においては、これまでの鑑賞講座の開講や遊覧船と浄瑠璃鑑賞を組み合わせた「じょうるりクルーズ」の運航を引き続き実施するほか、母屋を活用した文化講座の開講、他分野と人形浄瑠璃のコラボレーション公演実施など新たな取り組みにより入館者の増加に努めるとともに、農村舞台においても継続して公演を実施し、観客数が増加した。 　また、関西広域連合の文化振興事業として、阿波人形浄瑠璃の魅力をＰＲする映像を制作し、関西共通の文化として魅力発信に取り組んだ。 阿波十郎兵屋敷入館者数　26,436人 農村舞台観客数　5,690人 あわぎんホールほか劇場公演観客数　3,956人 ○　県内外からの公募及び県立中学校生等による合唱団が参加し、「第九」演奏会を開催。 　関西広域連合で取り組む「関西文化プログラム」として想定される関西の「文化力プロジェクト」として実施した。 　H28.1.30　アスティとくしま　約1,800人参加 ＜課題＞ ○　阿波人形浄瑠璃においては、若い世代をはじめとした新しい客層へのＰＲが必要。 ＜H27→H28計画の改善見直し箇所＞ ○「文化プログラム」の<u>推進</u> 　<u>㉘～㉚推進</u>	○　阿波十郎兵衛屋敷においては、これまでの取り組みのほか、新たな分野とのコラボレーション、新作の上映、農村舞台で地域の食べ物を食しながらの人形浄瑠璃鑑賞ができる公演の実施など、これまで鑑賞の機会が無かった若い世代が興味を持つような取り組みも実施していく。 ○　「第九」演奏会は、昨年度同様県内外からの合唱参加者を公募するとともに、映像による新たな演出を加えて実施することとし、今後、「第九」アジア初演１００周年、ベートーベン生誕２５０周年、東京オリンピック・パラリンピックに向け、継続して実施していく。 　さらには、「あわ文化４大モチーフ」を中心に、2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムとして世界に向け発信していく。	県民
	○阿波人形浄瑠璃公演等入場者数【主要指標】 ㉕３４，６７６人 →㉗～㉚年間３５，０００人以上	35,000人	35,000人	35,000人	35,000人	36,082人	◎			
	○「文化プログラム」の策定 ㉘策定		策定			－	－			
	○「関西文化プログラム（仮称）」の展開 ㉗展開	展開				展開	◎			
	○全国規模のベートーヴェン「第九」演奏会を継続的に開催 ㉗推進	推進				推進	◎			
622	●鳥居龍蔵博士の業績を国内外に発信することを目的に、鳥居博士の研究に関係する博物館や研究機関と連携して資料調査を進め、その成果を踏まえた展示や普及教育事業を行うために、関係機関とのネットワークを広げていきます。＜教育＞	推進・情報発信	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 1　新たに中国や台湾の大学・研究機関と学術交流を行った。 2　韓国の国立博物館スタッフも引き続き来訪しており，共同での資料調査が進展するなど，関係機関とのネットワーク形成が順調に進んでいる。 　上記の取組により，目標を達成した。 ＜課題＞ 　鳥居龍蔵にゆかりのある国内外の機関との連携を拡大するとともに,共同での調査研究を一層深めることが必要。	更なる国内外とのネットワークを広げ,その成果を魅力ある企画展において公開していくとともに，鳥居龍蔵博士の業績とその意義の発信のため各事業を実施する。	教育
	○連携機関数（累計） ㉕７機関→㉚１７機関	11機関	13機関	15機関	17機関	14機関	◎			

主要施策：２　史跡・文化財の活用

数値目標達成状況	委員評価	部局
☆☆	A	教育

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
623	●徳島県内出土の埋蔵文化財を蓄積している埋蔵文化財総合センターを文化財の公開・活用の拠点として整備し，地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、素晴らしさを発信していきます。＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １．指定管理者である公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターに委託し、重要文化財に指定された「観音寺・敷地遺跡出土品」の特別展示を行った。 ２．県教育委員会が埋蔵文化財総合センター20周年記念事業の一環として、重要文化財「矢野銅鐸」の４K動画を作成し、大型モニターで常時公開した。	県教育委員会と公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが協力し、魅力ある企画を展開していく。	教育
	○埋蔵文化財総合センター利用者数【主要指標】 ㉕７，７４９人→㉚８，５００人	7,800人	8,000人	8,200人	8,500人	9,010人	◎	＜課題＞ 前年度比2,100人の大幅増となった利用者数を維持できるか。		
624	●史跡と周辺の文化財をつなぎあわせて、各地の博物館・資料館等と連携しながら、文化財を活かした地域づくりを進めます。＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　県立埋蔵文化財総合センター「レキシルとくしま」のボランティアグループ１５人が、来館者の案内や植栽等を行った。 ２　国史跡「阿波遍路道」でも、阿南市２４人、勝浦町１５人がウォーキングや清掃ボランティアに取り組んだ。 ３　国史跡指定を目指す阿南市「若杉山遺跡」の再調査を県立博物館、阿南市と連携して取り組み、調査報告会及び資料展を阿南市夢ホールで開催した。	１　県立埋蔵文化財総合センターの指定管理者である公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターと連携し、「レキシルとくしま」のボランティア活動を一層活発にする。 ２　関係市町村と連携し、国・県史跡等の活用事業でボランティア活動を広げる。	教育
	○文化財ボランティア活動人数（延べ人数） ㉕３１１人→㉗～㉚年間３５０人	350人	350人	350人	350人	289人	○	＜課題＞ ボランティアが活動できる機会・場所が限られている。		
625	●史跡・埋蔵文化財についての講演会・ウォーキングを開催し、県民の文化財保護意識を醸成するとともに、県民による文化財の活用を進めます。＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 講演会「朱の考古学」に200人、「観音寺木簡シンポジウム」に100人、「遍路道（一宮道）ウォーキング」に40人の参加があった。	１　県立博物館、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター等の専門機関、市町村と連携し、多くの県民の皆様に魅力を感じていただける講演会・ウォーキングを開催していく。 ２　県ホームページ、マスコミへの掲載依頼等、県民の皆様への案内方法を改善する。	教育
	○史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加人数 ㉕１３４人→㉗～㉚年間１５０人	150人	150人	150人	150人	340人	◎	＜課題＞ 周知期間が短く、参加人数が想定を下回るイベントがあった。		
626	●国指定文化財を保全し、活用する取組みを推進するなかで、地域の活性化を図ります。＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　文化庁、関係市町と連携して取り組み、勝瑞城館跡、阿波遍路道（かも道）が追加指定された。 ２　鳴門板野古墳群の新指定、阿波遍路道（焼山寺道、恩山寺道）の新指定についても、意見具申した。 ３　出羽島の重要伝統的建造物群保存地区選定を目指す牟岐町を支援した。	1　文化庁、関係市町村と連携し、新指定、追加指定を進めていく。 ２　史跡の整備等に取り組む市町村を引き続き支援するとともに、ボランティアの育成を含め、活用に取り組むよう支援していく。	教育
	○史跡等国指定・選定数（累計） （追加国指定・選定を含む） ㉕１４件→㉚１９件	16件	17件	18件	19件	17件	◎	＜課題＞ 追加指定を含めた指定・選定件数は順調に増え、文化財が適切に保存されているが、イベントの開催など活用は十分と言えない。		

主要施策：３　文化の担い手づくり	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆☆☆	A	県民･教育

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
627	●文化の森総合公園文化施設において、民間との連携を図るなど魅力ある企画展やイベントの開催を通じ、広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供します。 ＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　H27年度は，開館25周年という節目であり，民間との連携による，「東京富士美術館所蔵　美の饗宴西洋絵画の３００年」・「フィギュア展」をはじめ，多様な文化の発信を行った。 ２　案内板，展示解説パネルの改修・多言語対応や収納ケース等の耐震化を実施し，安全・安心な文化施設として，障がい者，高齢者，外国人等全ての方々に気軽に芸術・文化に触れていただく機会の提供に努めた。 上記の取組により，目標を達成した。 ＜課題＞ 多様な文化を発信するため，より魅力ある手法の開発が必要。	より一層，民間との連携を図り，魅力ある企画展・イベントを実施するとともに，県民のニーズを的確に把握し文化施設としての更なる利便性向上及び県民の芸術文化活動の促進に努める。	教育
	○文化の森総合公園文化施設入館者数【主要指標】 ㉕６６９，２８２人→㉚７０万人	67万人	68万人	69万人	70万人	79万人	◎			
628	●あわ文化や近現代の優れた芸術作品に直接触れあう機会を設けるとともに、絵本の読み聞かせ講習や、史跡巡り、ワークショップ、古文書解読等の事業により、次代のあわ文化の担い手を育みます。＜県民・教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　H27年度の普及事業は，図書館12回，博物館114回，鳥居龍蔵記念博物館10回，近代美術館56回，21世紀館36回，文書館70回，計298回開催した。 ２　学芸員等の調査研究の成果を活かし，県民誰もが参加できる歴史散歩や観察会，鑑賞教室等の多様な機会を提供することにより，あわ文化の理解や関心を高め，次代のあわ文化の担い手の育成に貢献した。 ３．文学書道館における文学・書道関係の講座４２回のほか、阿波十郎兵衛屋敷における鑑賞講座や生け花等の文化講座の実施、あわぎんホールにおける阿波木偶制作教室、郷土文化講座など計１２０回の講座を開催し、文化にふれる機会を創出した。 ＜課題＞ ○幅広い世代を対象に，多彩な内容で誰もが文化に親しめる工夫が必要。 ○特に新しいファンの拡大を図るため、若い世代を呼び込む魅力ある講座の開催が必要。	更に魅力ある各種展示解説，体験教室，ワークショップを行い，あらゆる世代の誰もが楽しみながらあわ文化に触れる機会を創出し，担い手の育成に取組む。	県民教育
	○文化の森文化施設普及事業の開催回数 ㉕２６５回→㉗～㉚年間２７０回以上	270回	270回	270回	270回	298回	◎			
	○文学書道館等拠点となる文化施設での講座開催回数 ㉕４７回→㉗～㉚年間５０回以上	50回	50回	50回	50回	120回	◎			
629	●児童生徒が身近に芸術文化に触れる機会を充実させるとともに、児童生徒を対象に、芸術文化分野での創作活動の支援や伝統芸能分野での担い手育成を行い、地域に根ざした文化の発信活動を支援します。＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣事業）は，小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に，芸術家を派遣し，講話や，実技披露，実技指導を実施。平成27年度は51校において，本事業を活用した文化活動を実施した。 ＜課題＞ 実施を希望する学校が縮小する傾向にある。	実施校の反応や感想等を活用するなど広報を工夫し，参加校の募集に努めるとともに，人材バンクの活用を促していきたい。	教育
	○学校への芸術家等派遣事業に参加した児童生徒数 ㉕１０，５９７人 →㉗～㉚年間１０，０００人	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人	10,583人	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
630	●音楽文化が息づくまちづくりを推進するため、全国初となる二度目の国民文化祭を契機に設立した、「とくしま記念オーケストラ（とくしま国民文化祭記念管弦楽団）」による本格的なコンサート等を開催し、一流の芸術文化を鑑賞・体験する機会を創出します。＜県民＞	開催	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ とくしま記念オーケストラによる本格的な演奏会として「第4回定期演奏会」や「ニューイヤーコンサート」、中高生を対象に質の高い演奏を提供する「入門コンサート」。地域での機会創出のために実施した阿波市、三好市、藍住町、美波町での「市町村連携コンサート」。県内唯一の芸術科リーディングハイスクールである名西高校へのアウトリーチ活動の一環による演奏会。県内外から公募した合唱団との共演による「第九」演奏会など、計９回実施した。 ＜課題＞ 特になし	今年度においても、中高生を対象とした入門コンサートや定期演奏会、市町村連携コンサート、「第九」演奏会など「とくしま記念オーケストラ」による本格的な演奏会を計画しており、一流の芸術文化を鑑賞する機会の創出に努める。	県民
	○コンサートの開催数 ㉕６回→㉗～㉚年間６回以上	6回	6回	6回	6回	9回	◎			
631	●文化遺産や芸術文化に関する「人材バンク」の登録を推進するなど、あわ文化教育の創造に取り組みます。＜教育＞	→	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 文化遺産や郷土料理・民俗芸能・邦楽などの伝統文化を指導できる個人・団体を探し，人材バンクへの登録を依頼し，相応の人数を確保した。 ＜課題＞ 登録者の高齢化に伴い，登録の継続を辞退する方が増えてきている。	事業の周知に努め，希望する学校に積極的に働きかけて講師を派遣するとともに，広報に努め，様々な分野からの人材の追加登録に努めたい。	教育
	○「人材バンク」登録者数 ㉕１８３人→㉗～㉚年間１８０人	180人	180人	180人	180人	180人	◎			
632	●幅広く芸術文化の振興・発展に取り組んできた基盤を生かし、新たなファンを開拓してさらにすそ野を広げ、芸術文化が息づくまちづくりを推進します。＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 県民文化祭事業として、二度目の国民文化祭の期間（9月1日から12月14日まで）を開催期間とし、メイン事業としてギターコンサートを実施したほか、分野別フェスティバル、共催事業などを各文化団体とともに開催した。 また、文化立県とくしま推進事業では、地域に根付く文化の掘り起こしや積極的に文化活動に取り組む市町村や文化団体への支援を行った。 ＜課題＞ 特になし	引き続き、県民文化祭事業や文化立県とくしま推進事業により、本県の誇るあわ文化４大モチーフの発信をはじめとする芸術文化の振興に取り組む。	県民

基本目標７「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

７-４ 世界を体感！「スポーツ王国とくしま」の推進

主要施策：１　スポーツの振興による にぎわいづくり	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆☆	A	県民･商工･県土

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
633	●２０１９年から２０２１年にかけて開催される３大国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック及び関西ワールドマスターズゲームズ２０２１）のキャンプ地及び競技会場の積極的な誘致活動を展開するとともに、「関西ワールドマスターズゲームズ２０２１」の成功に向け、関西全域における生涯スポーツの機運醸成を図るため、「関西マスターズスポーツフェスティバル」を積極的に推進します。 また、誘致を見据え、鳴門・大塚スポーツパーク（鳴門総合運動公園）の施設の充実を図るとともに、外国人旅行者等の受入環境を整えます。＜県民・県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・関西マスターズスポーツフェスティバルについては、関西ワールドマスターズゲームズの開催に向け、県内の生涯スポーツイベントの協力を得ながら、関西マスターズスポーツフェスティバルの冠大会を実施し、概ね目標を達成した。 ・キャンプ地及び競技会場の誘致については、海外競技団体との交流や関西ワールドマスターズゲームズのプレ大会などを実施し、海外選手の受入れに必要な施設等の環境整備についても課題の洗い出しを行った。 ・鳴門総合運動公園野球場（オロナミンＣ球場）の照明塔改築（内野側の２基）に着手した。 ＜課題＞ ・関西マスターズスポーツフェスティバルについては、毎年３月に開催されていた1,000人超が参加する対象スポーツイベントが４月開催となったことにより、H27年度の目標数には届かなかった。	・関西マスターズスポーツフェスティバルについては、引き続き、冠大会の対象となるスポーツイベントの協力を得ながら実施する。 ・キャンプ地及び競技会場の誘致については、引き続き、海外競技団体との交流を行うとともに、海外選手の受入れに必要な環境整備を進める。 ・平成２８年度は、オロナミンＣ球場の外野側照明塔２基の改築工事に着手する予定。	県民 県土
	○「関西マスターズスポーツフェスティバル」県内大会年間参加者数【主要指標】 ㉕－→㉚１５，０００人	14,000人	14,500人	14,500人	15,000人	12,998人	○			
	○キャンプ地及び競技会場の誘致決定件数（累計） ㉕－→㉚３件		2件	2件	3件	－	－			
	○オロナミンＣ球場（野球場）照明塔の改築 ㉚完了				完了	－	－			
	○公園案内板の多言語表記 ㉚完了				完了	－	－			
634	●２０１９年から２０２１年にかけて開催される３大国際スポーツ大会の誘致に向けて県内の機運醸成を図るため、競技団体や関係機関との連携による大規模スポーツ大会（５００人以上）の開催を誘致し、その定着を図ることにより、競技力の向上に取り組み、スポーツの交流を通じた活気あふれるスポーツ王国づくりを目指します。（再掲）＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・西日本グランドゴルフ大会（4月） ・西日本少女サッカーフェスティバル（5月） ・西日本ソフトテニス選手権大会（7月） ・阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会（8月） ・西日本渦潮少年サッカー大会（8月） 上記大会により目標を達成した。 ＜課題＞ スポーツ施設を更に充実させることにより、大会誘致が進む可能性がある。	引き続き、Ｈ２８年度実績達成に向け、競技団体と働きかけを行う。	県民
	○大規模スポーツ大会の開催数 ㉕５大会→㉗～㉚年間４大会以上 ・競技ラフティング世界大会 （２０１７年度開催）	4大会	4大会	4大会	4大会	5大会	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30					
635	●徳島ヴォルティスを通じて、次世代を担う子ども達にプロスポーツのすばらしさを体験してもらうとともに、スタジアムへの来場を促進する取組みを行い、県内にぎわいの創出を図ります。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 1　ホームタウンデーの開催 2　感動体験推進事業の実施 3　ホームゲームにおける県民デーの開催 ＜課題＞ 工夫を凝らしたイベントの実施やＰＲ	・招待事業や趣向を凝らしたイベントを実施するとともに，効果的なＰＲに努め、より一層の集客向上を図る。	商工
	○小中高生招待者数 ㉕８６７人→㉚１，２００人	900人	1,000人	1,100人	1,200人	2,698人	◎			
636	●市町村等と連携協力し、プロスポーツを活用したスタジアムのにぎわい創出や、本県を全国にＰＲする施策を展開します。＜商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 1 プロスポーツグループ招待事業の実施 １５７人 2 スポーツ王国推進事業の実施　８１５人 ・海陽町でのオープン戦に合わせて、様々なイベントを実施した。 ＜課題＞ 工夫を凝らしたイベントの実施やＰＲ	・招待事業や趣向を凝らしたイベントを実施するとともに，効果的なＰＲに努め、より一層の集客向上を図る。	商工
	○徳島インディゴソックスホームゲーム 招待者数 ㉕８１２人→㉚１，０００人	900人	950人	980人	1,000人	972人	◎			

主要施策：２　競技力向上対策の推進

数値目標達成状況	委員評価	部局
☆	B	県民･教育

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
637	●本県の競技力向上のため、企業や大学が実施するスポーツ選手の強化・育成事業に対する支援を行います。 また、県出身者が全国大会や国際大会で活躍ができるよう、ジュニア期から優れた素質を有する競技者を発掘し、トップレベルの競技者へと育てる「一貫指導システム」の構築と「トップ指導者の養成」を継続的に支援するとともに、競技スポーツの重点強化による成果志向型の選手強化を図ります。＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ １　「企業スポーツ支援事業」を新設し、高い競技力を有する選手を受け入れて競技力の向上を図っている企業・法人を支援した。 ２　「一貫指導システム」の構築を目標におこなっている「徳島育ち競技力向上プロジェクト」参画23競技団体の強化の充実を図ることができた。 ３　オリンピック等の国際大会に県選手を輩出できるように、有望な選手への育成費の支給や強化遠征事業の助成、また専門性の高いサポートの提供などを実施した。 上記の取組みにより、国体での優勝種目数を前年の２種目から５種目へ、また総得点を550点から605.5点へと伸ばすことができた。 ＜課題＞ 国体の順位は46位であった。ジュニアからユースへ向けての継続的・体系的な選手育成ができるような強化システムの構築が必要である。また優秀な指導者の養成とサポート体制の充実を図ることが求められる。	国体｢少年｣種目の四国ブロック突破率の向上に向けて、競技団体との連携を一層密にして一体となって強化を進める。特に団体競技においては入賞時の得点が高いので、支援の見極めを行い成果が上がるように取り組む。また、「徳島育ち競技力向上プロジェクト」への加入競技団体を増やすとともに、ふるさと選手の活用や競技力向上について助言していきたい。	県民
	○国民体育大会天皇杯順位【主要指標】 ㉕４７位→㉗～㉚毎年３０位台	30位台	30位台	30位台	30位台	46位	△			
	○新たな支援制度の創設 ㉗創設	創設				創設・推進	◎			
638	●有力選手を特定の高校へ集め、指導体制を整備するとともに、中学校、高校及び各競技団体等関係機関の三者間での連携強化を進めるなど、競技力向上のための基盤強化を図ります。また、早い段階での有力選手の発掘・育成を進めるため、活躍が期待できる競技を選考した上で中学校段階での指導体制強化を図ります。（再掲）＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 高校は「トップスポーツ校育成事業」において２０校３６部を指定し，指導者の配置や入試による有力選手の獲得枠の確保，強化費の支援を行った。中学は「トップスポーツ競技」として６競技をそれぞれ指定し，強化を進めた。 中学･高校･競技団体で連携を密にし，有力選手の情報の共有を図った。 ＜課題＞ 中学生の更なる競技力向上を図る必要がある。	･中体連，高体連を引き続き支援する。 ・中学生の一層の競技力向上を図るため、県外強豪校への遠征、徳島県へ招いての合同練習・練習試合の実施，指導者を招聘しての選手への講習会，県内指導者に対しての研修会を実施する等，競技力の向上に努める。 ・とくしまトップアスリート発掘・育成プログラム事業おいて，ジュニア層の中から優れた人材を発掘し，大学や関係団体と連携して継続的に育成し、全国大会等で活躍できる競技者を輩出する。 ・特に中学校の剣道(女子)・駅伝(男子)・陸上など、入賞まであと一歩の競技について、関係団体とも連携し、更なるレベルアップを図る。	教育
	○全国高等学校総合体育大会の入賞 （団体・個人）数 ㉕１１団体・個人→㉚２２団体・個人	17団体・個人	18団体・個人	20団体・個人	22団体・個人	20団体･個人	◎			
	○全国中学校体育大会等の入賞 （団体・個人）数 ㉕９団体・個人→㉚１３団体・個人	10団体・個人	11団体・個人	12団体・個人	13団体・個人	6団体･個人	△			
639	●平成２４年度に開校した鳴門渦潮高校「スポーツ科学科」の充実した施設・設備を活用し、スポーツの拠点校としてより高度で質の高いスポーツ教育を行い、本県スポーツ科学の普及・振興を図ります。（再掲）＜教育＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ 新たに女子ラグビー・剣道・ウエイトリフティングの３競技が専攻実技に加わった。女子ラグビーでは全国大会初出場で第10位、ウエイトリフティングでも県大会個人優勝した。 ＜課題＞ ﾄｯﾌﾟｽﾎﾟｰﾂ校と重複している競技の強化。	･スポーツ拠点校推進事業の実施	教育
	○徳島県高等学校総合体育大会等での 鳴門渦潮高校の優勝種目数 ㉕１種目→㉚８種目	５種目	６種目	７種目	８種目	7種目	◎			

主要施策：３　生涯スポーツの推進	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆	C	県民･県土

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
640	●「総合型地域スポーツクラブ」の創設・育成を支援するとともに、スポーツを活用した健康づくりの体制を整備し、みんなが楽しめる生涯スポーツの普及を図ります。 また、県南地域における生涯スポーツの拠点づくりのため、運動公園等の整備を推進します。＜県民・県土＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・市町村において創設されている総合型地域スポーツクラブに対し人材養成、クラブ間のネットワークづくりなど多面的な支援を行いクラブの機能強化を図ることで、地域の課題解決を図る取組みを行った。 ・南部健康運動公園陸上競技場の設計に着手した。 ・ソフトボール場の整備推進。 ＜課題＞ totoの助成等が終了し、自力でのクラブ運営へと移行していく中で、財源不足から教室やイベントの縮小や終了等で会員が集まらなくなっている。	・引き続き総合型地域スポーツクラブに対し人材養成、クラブ間のネットワークづくりを行うほか、指導者の派遣や総合型地域スポーツクラブ未設置の町への働きかけを行う。 ・H28は、南部健康運動公園陸上競技場の運営棟（スタンド含む）の実施設計を行い、造成工事に着手する予定。 ・ソフトボール場のH28供用を目指し、引き続き整備を実施する。	県民 県土
	○総合型地域スポーツクラブの会員数【主要指標】 ㉕８，６４０人→㉚１２，０００人	10,300人	11,100人	12,000人	12,000人	9,115人	△			
	○南部健康運動公園の整備 ㉙陸上競技場の着工			陸上競技場の着工		－	－			
	○橘港小勝・後戸地区の緑地整備 （スポーツ・レクリエーション振興ゾーン） ㉕整備中→㉘ソフトボール場の２面供用		ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ場の2面供用			－	－			
641	●「する」「観る」「支える」など多様なスポーツへの取組みを促進し、運動習慣の確立やスポーツ推進の機運を高めるため、誰もが楽しめるスポーツイベントへの助成や情報発信などを行い、県民のスポーツ参加機会の拡充を図ります。＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・総合型スポーツクラブ等の行うスポーツイベントに対し助成を行った。決定件数21件（うち1件事業中止） ・本県のスポーツ情報を総合的に発信するポータルサイト及びフェイスブックを運営した。 ＜課題＞ 特になし	引き続き県民のスポーツ参加機会を拡充する事業を積極的に実施することにより、生涯スポーツ社会づくりを推進する。	県民
	○イベント等助成数 ㉕２６件→㉗～㉚毎年２０件以上	20件	20件	20件	20件	20件	◎			
642	●健康や環境にも好影響をもたらす自転車を活用したサイクルスポーツの普及を図る「自転車でつながる人・まちづくりプロジェクト」を推進し、自転車利用を計画的かつ体系的に推進して、サイクルスポーツを通じて新しい魅力を創出します。＜県民＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ライドイベントやミニガイドツーリング等を実施し、サイクルスポーツの普及、充実を図った。 また、県内のサイクルイベントを「自転車王国とくしま」としてブランド化し、県内外に情報発信を行った。 ＜課題＞ ４大サイクルイベントの内、2つは参加者が増えているが、残る2つは減少傾向にある。	減少傾向のサイクルイベントに対し、著名なサイクリストの招聘等の支援をしていく。	県民

主要施策：４　障がい者スポーツの推進

数値目標達成状況	委員評価	部局
☆☆☆	A	保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
643	●県内小、中、高、特別支援学校において「障がい者トップアスリートによる講演会」を開催し、障がい者スポーツの素晴らしさを伝え、その理解を深めることにより、徳島から２０２０年東京パラリンピックの気運の醸成を図ります。（再掲）＜保健＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ パラリンピック等国際舞台で活躍する選手が県内１１校を訪問。自身の経験や魅力を語る講演会を開催し、3,635名の参加があった。 ＜課題＞ パラリンピック等に向けて，継続実施することが必要。	引き続き多くの児童・生徒に参加してもらうため、未開催校での講演会を実施する。	保健
	○障がい者トップアスリート講演会実施回数 【主要指標】 ㉕－→㉗～㉚年間１０回	10回	10回	10回	10回	11回	◎			
644	●国際大会や全国大会で活躍が期待される障がい者スポーツ選手を支援し、本県からパラリンピック及びデフリンピックの出場選手を輩出することにより、障がい者の自立と社会参加へのさらなる意欲の向上と県民理解の一層の推進を図ります。（再掲）＜保健＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ パラリンピック等選手育成強化支援事業の募集周知（資料提供、ホームページ、市町村周知依頼、関係機関）等広く呼びかけ、選考委員会を開催。４名の強化選手を決定し、活動の助成を行った。 ＜課題＞ パラリンピック等に向けて，継続実施することが必要。	本県からパラリンピック等の出場選手の輩出のため、パラリンピック等選手育成強化支援事業を実施する。	保健
	○パラリンピック等育成強化選手数 ㉕－→㉗～㉚年間３人	3人	3人	3人	3人	4人	◎			

基本目標７「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

７-５ 一歩先の未来へ！「とくしま新魅力」の発信

主要施策：１　４Ｋ先進地とくしまの推進	数値目標達成状況	委員評価	部局
	☆☆☆	A	政策･県民･商工

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
645	●スーパーハイビジョン（４Ｋ８Ｋ）の先進地徳島を国内外へ発信するとともに、優れた映像クリエイターを徳島へ集積させるため、「４Ｋエリア試験放送」や「４Ｋ映像コンテスト」を行います。（再掲）＜県民・商工＞	推進	→	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ・日本屈指の国際放送機器展「InterBEE」等の展示会に出展し、４Ｋ先進県・徳島の取組みについて全国に発信し、関連産業集積につなげるＰＲを行った。 ・H27.10.24･25の２日間、阿波市のアエルワホールにおいて、４Ｋ映像による最新映像をオーケストラの生演奏と融合させ、観客の動きに合わせて映像が変化するインタラクティブ演出を組み合わせたプロジェクションマッピング・コンサートを実施した。 ・平成28年2月18日から3月31日まで、神山町においてケーブルテレビによる４Ｋエリア試験放送「徳島４Ｋチャンネル」の放送を実施した。 ・日本初の４Ｋコンテンツの祭典「４Ｋ徳島映画祭in神山」を開催、同時に「とくしま４Ｋフォーラム」を開催し、全国から業界関係者をはじめ多くの来場者を集め、本県の取組みのＰＲを行った。 ・４Ｋコンテンツ制作を通じてクリエイターの育成を行った。 ＜課題＞ 国内外への情報発信の強化	・さらなる国内外への情報発信に努め、関連産業の集積に努める。	県民 商工
	○４Ｋ８Ｋ関連企業（者）数【主要指標】 ㉕２社（者）→㉚１０社（者）	4社	6社	8社	10社	10社	◎			
	○「次世代プロジェクションマッピング」の創造 ㉗実施	実施				実施	◎			
	○ケーブルテレビによる４Ｋエリア試験放送の実施 ㉗実施	実施				実施	◎			
	○４Ｋアワードの開催 ㉗開催・㉘～継続	開催	継続	継続	継続	開催	◎			
646	●徳島県が打ち出した共通コンセプト「vs東京」の実践に向けて、その情報発信の核として、豊かな自然や文化の魅力から、多くのクリエイターを惹きつけるという本県の存在感を打ち出すために、世界の映像クリエイターにとって魅力のある地域となることを目指した「実践の場」として、「徳島国際短編映画祭」を開催します。＜政策＞	開催	継続	→	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ （１）徳島国際短編映画祭の開催 「札幌国際短編映画祭」と連携し，ＩＣＴ先進県としての本県の優位性を活かした，４Ｋ映像による本県ならではの映像コンテンツを発信するとともに，国内外から珠玉の短編映画を上映することで，徳島がクリエイターにとっての「創造の気づきの場」となるよう，西日本初の本格的な国際短編映画祭を開催。 期間：平成２８年３月１８日（金）～３月２０日（日） 場所：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館） 総合ディレクター：菱川勢一（ﾄﾞﾛｰｲﾝｸﾞｱﾝﾄﾞﾏﾆｭｱﾙ(株)代表） 来場者数：４，５００人 ＜課題＞ 開催周知の広報タイミングが遅れた	早め早めの開催周知を展開し、より洗練・充実したイベント開催へ発展させる。	政策
	○「徳島国際短編映画祭」の開催 ㉗開催	開催				開催	◎			

主要施策：２　「世界遺産」登録への挑戦

数値目標達成状況	委員評価	部局
－	B	政策

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画） H27	H28	H29	H30	実績値（H27）	数値目標の達成度	H27取組内容と進捗状況・課題	今後の取組方針	部局
647	●「四国八十八箇所霊場と遍路道」は「世界に誇る四国の財産」であり、この「かけがえのない文化資産」を全国に、さらには世界へ向けて発信し、人類共有の財産として将来の世代へ保存・継承していくため、四国他県や関係団体と連携して、世界遺産登録を目指した取組みを加速します。＜政策＞	→	記載	推進	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ○世界遺産登録推進協議会及び各部会において，文化庁から示された課題（普遍的価値の証明，資産の保護措置等）を解決するため，四国４県で取り組みを進めた。 ○H27.9.1　四国４県とｽﾍﾟｲﾝ・ｶﾞﾘｼｱ州が「四国遍路」の世界遺産登録に向け協力協定を締結。 ○H27.10.7　国史跡「阿波遍路道」に「かも道」約1.3kmが追加指定。 ○H28.1.25　「焼山寺道」など約2.8kmについて，新たに意見具申を行った。 ＜課題＞ ○四国全体で1,400kmに及ぶ遍路道と８８箇寺について，関係市町と連携し，着実に資産の保護措置を行っていく必要がある。	平成28年度中に，文化庁に対し「再提案書（仮称）」を提出し，「世界遺産暫定一覧表」記載へ再チャレンジする。	政策
	○国の世界遺産暫定一覧表※への記載 【主要指標】 ㉘記載		記載			－	－			
648	●「世界三大潮流※」の一つに数えられ、渦の大きさは世界最大規模と言われる「鳴門の渦潮」の魅力を全国、そして世界へ向けて発信するとともに、人類共有の財産として保存・継承していくために、徳島県、兵庫県及び関係市・団体が連携して、世界遺産登録を目指した取組みを推進します。＜政策＞	→	調査研究とりまとめ	推進	→			＜H27取組内容と進捗状況＞ ○ 鳴門の渦潮の世界遺産登録に必要な「顕著な普遍的価値」を証明するための学術調査を実施すると共に、世界遺産登録に向けた普及啓発活動を行った。 ○ H27.4.14 第1回 学術調査検討委員会開催（学術調査体制整備） ○ H27.5.29 第1回 協議会幹事会開催（H27事業計画等策定） ○ H27.8.21 第2回 学術調査検討委員会開催（学術調査内容確認） ○ H27.11.6 第2回 協議会幹事会開催（H28事業計画等策定） ○ H28.1.22 第3回 学術調査検討委員会開催（学術調査中間報告） ○ H28.2.17 第2回 協議会総会開催（学術調査及び普及啓発活動報告）	今年度、文化的分野における基礎的調査の取りまとめを実施する。	政策
	○世界遺産登録に向けた調査研究の実施 ㉘文化的調査研究とりまとめ		調査研究とりまとめ			中間取りまとめ	－	＜課題＞ 文化的分野の基礎的調査の取りまとめに向けて、今年度調査を継続する。		